

ケミカルバイオロジー研究所

Research Institute for Chemical Biology

第41回 ケミカルバイオロジー研究所セミナー
第120回 生物科学フロンティアセミナー

森川 耿右 先生

京都大学大学院 生命科学研究科

構造生物学と生命の階層性

令和4年6月15日(水) 15:00~16:00

学術交流会館 多目的ホール

「生命とは何か」なる問いに、我々は未だに明確な解答を与えることが出来ていない。問題は、38億年前の生命の起源以降、地球環境の変化に生物が適応して形質が進化してきた事実にある。この「生命の階層性」のアフォーリアは、フランシス・クリックをはじめ物理学出身の分子生物学における多くのパイオニア達を脳神経科学の分野に誘った。こうした事実は、進化の最終段階に位置する人間の意識の解明が複雑系科学の問題であり、彼らをして還元主義的手法の限界を実感させたことにある。小生は一介の構造生物学研究者にすぎないが、こうした歴史を踏まえて、科学と哲学の境界は現在どのような状況にあるかについて感想的私見を述べてみたい。

ケミカルバイオロジー研究所・所長 中瀬 生彦
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1
大阪公立大学大学院理学研究科
(連絡先) 藤井 郁雄
TEL: 072-254-9834, fujii@omu.ac.jp



大阪府立大
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY